

住つて居たが、勿論警官は其避難先きは知らなかつた、國家のためには家族も家も顧る暇はないのである。

○こうした美談は至る處に現はれた日常と雖も職業のためには一身を犠牲にする事もあり家族を犠牲にする事もある、我が家に火が移ると聞かされても町のためにはと筒先を放さなかつた消防夫も人民のために妻子の行違を知らぬ警官も子供を救はんがために一命を抛つた先生も學校と運命を共にせんが爲めに我が家の焼けるのも顧みるに暇ある妻子の焼死するのをさへ救ふ事が出来なかつた校長も、會社を死守して遂に火災より免れ得た會社員も、つくす處は皆同じである、職業は異れど

も職務に忠實あ赤き心に變りはないいづれの職業にたゞさはる人でもかねてよりかうした覺悟を持たあい人はない、それがかゝる非常の場合に遭遇すると明かに認められるのであるたゞ其覺悟に強弱の差あるは己を得ない事である、此度の事變は明かに人の心の底を暴露した、親切な人、不親切な人、公徳心のある人、利個的の人、心の大きい人、小さい人、大勇の人、小勇の人、知者も、無知者も自分を覆ふ事は出来なかつた、加ふるに不慮の出来事に心奪はれて日頃の覺悟に似ず不覺を取つた人もないとは云はれない、此際にあたつてかかる美談を忘れず日頃の覺悟を一しほかたくせんと思うのである。

本願寺託児所について

記

者

未曾有の大震災はあらゆるもの破壊した、少くとも凡ての文化の進歩を妨げたに相違ないが幼

児に關する事業は最も大なる打撃を受けたに相違ない、九月一日の夕四方火にかこまれあがら幼兒

教育の前途を憂いたのは獨り幼兒教育者ばかりではあかつた。處か事實に反して幼兒に關する社會的事業の聲は高くなり幼兒のために活動するゝ方が非常に多かつた。之は慥に幼兒教育が盛んにあり各方面の人々の腦裡に明かに刻み込まれて居るゝ事は證據だてるものである、本願寺で經營するゝ託児所も其一つである。

本願寺では上野、池の端、淺草、月島、深川等に託児所を設け尙増所の計畫である、一日上野託児所を參觀し池田主任より伺つた處によると、こゝは九月十六日から始めたもので十一月十五日迄に入所したる幼兒は四百二十四名、既に退所したるもの三百十一名、在籍は百十四名である、かく入退のはげしいのは、其家族の居住が變更する爲めである、開所の頃はまだバラツクも建たず、焼トタンを集めて建てられた假小屋に住つて居た人が多かつたが、元の住宅跡にバラツクが出來たり、市のバラツクに移つたらする人が多くなつた爲め十月の初め頃はしきりに移轉する人が多く退所が

多かつた、同時に上野に建てられたバラツクに移り住む人が多くあつたので入所も多かつたわけである、今でも日に三四名の申込みが絶えあい、入所許可の方針は一々實地調査をして、兩親ともに勞働せねばあらぬ人、家に子供を見てくれる人の一人もあい人、兩親病氣のため生計に困る人等を入所させ眞に其必要と認めあい人は断つて居る。

職員は主任一人保母四人外に炊事係と給仕が一人である、朝は七時より夕方四時迄預り晝食とおやつを與へる定めであるが中には六時頃より出掛ける人もあるので六時にはもう預けにくる人がある夕刻も六時を了つてもまだ迎に來るゝ人もあるそれ等の子供を飽きさせず寂しがらせぬやうに遊ばせ夕食までさせる事は稀らしくない、中には宿泊させる事もある、或子供は母親の手一つに育てられて居たが、四疊半のバラツクに三家族も住んで居るので、同居家族との關係であつたのか二十日以上も迎に來す自分の居所も知らせないのがあつた、又父親だけの子供もおいて行かれた、後か

ら其父は傳染病にかゝつたため入院した事がわかつた、これ等の子供は皆地震のためにおびひて居るので、夜泣きはする、物にはおびえるすいぶん手がかゝるが日の重あるにつれて温かき保姆の手に抱かれ慈悲深き主任の愛になづき父戀しとも母戀しともいはない、安心して居るのである、けれども我子の愛にひかれぬ人はない、二十三日目に迎に來た父親は涙ながらに禮をのべて連れかへつた、かゝる例は少くあいとの事である。食事は別に炊事場があつて子供に適したもののが調理されたハヤシライスや五目飯、野菜の煮付などに子供等は舌鼓をうつて先生今日はおいしきございましたと喜んで居る、小さい子供には先生が一口づゝやしなつて食べさせなければならあいので手がかかるのである、おやつは先生方の考で牛乳にビスク、ソト、子供パン等其日によつてきめられる。こゝでは普通子供に見るやうに好き嫌をいふ人多く一度も食べないといふ子供を見た事がないのは喜ばしい事である。二間巾に四間の部屋が二つと外に

狭い玄關と事務室だけの託児所は幼児の數から見て廣くはない、二間巾であり窓が少く庭もないのであるから遊戯なども思うやうに出来ない、時間が長いのであるから單調を補ふため又日光に浴するため晴天の日は代るゝ汽車を見たり竹の臺邊の廣場で運動したりして居る。組は年齢によつて二つに分けである、時間を定めてお話や手技手工などもさせ娘方にも注意して居るが一般に子供の心が荒んで居るので落ちつかない、突飛な質問に先生を困す事も度々である、わけても上野の子供が荒んで居るといふのは周圍に於ける種々の事情による事であらう、けれども之等の子供は熱心なる保母の感化によつて日に日に善きに進んで行くのは嬉ばしい事である、社會のために一身を顧ないとはいへ六時前よりつめかける子供を預り食事やおやつの世話を勿論顔を洗う事から結髪爪とり下の仕事に至るまで一日一分のひまもなく手も口も身体中を働かしていやあ顔一つせず働き通す事は全く犠牲的精神性の燃えて居る人でなければ出來

あい、しかも定休日は一日と十五日だけである。尙この間に家庭を訪問して實地調査をされるときには敬服の外はないのである、宜なる哉迎に来る親の顔には感謝と希望の光が輝いて見える、一人の車夫は妻に別れ二人の兒をこゝに托して一日働いて居るが今日は仕事が多かつたと見え常よりは少し早めに迎に来て二人の子供を車にのせ子供の喜ぶ顔に自分も喜び欣喜として車をひいてかへつたには思はず涙のこぼれるのをどうする事も出来なかつた。

尙本願寺が震災後經營された事業は震災後直ちにハガキ班をつくり十班の人々が一萬枚位のハガ

きを買ひ集め鉛筆と箱を持つて要所／＼に陣ざり用事のある人に書かせたり書いて與へたりして之をあつめ大宮に持つて行つて投函した。又多くの應援者を派出して死人の焼場や倒れ人のある處で讀經をさせた等である。之等の事が終らあいうちに一方では託児所、無料宿泊所、移動浴場、食堂文庫、醫療班、人事及子供相談所、衣類其他の配給等について活動された、衣類其他の物品は全國にある三十六教務所に屬する一萬餘の末寺が協力して寄贈されたもので驚くべき多數に上つたそうである。

お茶の水の幼稚園の焼け跡に立ちて

倉 橋 生

くづれた煉瓦と、うづ高い灰と、焦げた木材の破片との中に、土臺の据石だけが整然と残つて居る。それが各室の位置と區割とを、さながらに示

して居るのも却つて侘しい。丁度前日、外部全体の塗換の工事を終つて、實に何十年振りの新装に美を凝らした、あの幼稚園を、今此の姿に於て見